

AMDAより熊本地震での活動報告書が届きました。茅ヶ崎中央RCメンバーの活動報告も掲載されています。

南海トラフ地震・津波に備えて ～2016年熊本地震 被災者救援活動の検証～



地震で外傷を負った子どもの治療を行う AMDA 医療チーム

AMDAは相互扶助の精神に基づき、災害や紛争発生時、医療・保健衛生分野を中心に 緊急人道支援活動を展開。世界 32 カ国にある支部のネットワークを活かし、多国籍医師団を結成。2016 年度末まで 67 カ国でプロジェクトを実施し、59 カ国で 180 件の緊急支援活動を実施。2013 年より南海トラフ地震・津波に備え、自治体と連携して準備を進めている。

2016 年 4 月 14 日に発生した熊本地震への緊急支援活動として、4 月 15 日から医療支援活動を開始。AMDA の医療従事者派遣数は 127 名。AMDA の支援をうけた方々は、医療：延べ 1068 名、鍼灸：延べ 1841 名、医療・鍼灸合計延べ総数：2909 名。

救える命があればどこへでも

認定特定非営利活動法人 AMDA

十字屋グループの給水車を使った支援活動

AMDA と災害時連携協定を結んでいる株式会社十字屋グループ（本社：岡山県真庭市）社員 2 名と給水車が 4 月 23 日に総社市を出発し、翌 24 日から 29 日まで給水車を使った支援活動に従事した。益城町立総合運動公園陸上競技場に設置されたテント村の仮設トイレでは、給水の必要性があった。本来であれば、トイレで使用する水を自衛隊の給水車から仮設トイレまでバケツで運ばなければならなかったところ、十字屋グループの給水車で運ぶことができたため現地では“大変助かった”という声が聞かれた。



現地で活躍した十字屋グループ給水車

茅ヶ崎中央ロータリークラブ

東日本大震災の際の物資支援、パキスタン家庭教育プログラムにご協力いただいた茅ヶ崎中央ロータリークラブのスタッフ 3 名が 5 月 23 日、広安小でボランティア活動を行った。当日は避難所となっている広安小学校体育館の 2 階部分の清掃を主に担当された。避難所となっている体育館では避難場所の 1 階とトイレは避難者の中で自主的に掃除がされているが、2 階部分には手が回らず、掃除ができないでいた。ダニやカビなどによる健康被害を減らすためにも今回の清掃は避難者、支援スタッフにも喜ばれていた。その他にも倉庫の清掃、整理など人手が足りずに手が付けられなかった部分を補っていただいた。



清掃に取り掛かる様子



体育館 2 階の清掃を行う茅ヶ崎ロータリークラブの方と松永調整員

茅ヶ崎中央ロータリークラブ



本間 多佳泰

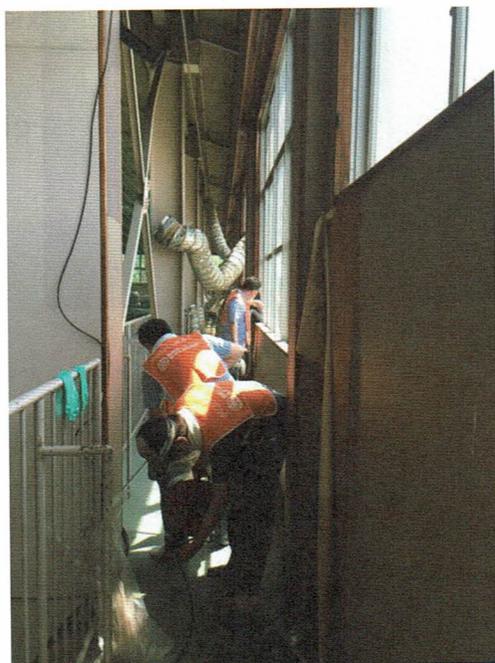
中川 信義

嵯峨野 貴央

2016年4月14日21時26分に熊本県と大分県で相次いで発生した地震のニュースが流れる中、我が茅ヶ崎中央ロータリークラブ例会後の有志による懇親会での酒も廻っての話であった。東日本の時もそうだったが、実際の被災地の状況と避難所の運営はどうなっているのか。我が地にも、必ず起きるであろう大地震に少しでも役立てればという話になり、「ここで話していても何も始まんないよ」ということで、急遽、「くまもんボランティア隊」なるオジサンの集まりが結成された。当初は、酒の席での話なので、実際、行動することが可能なのか、いささか疑問であったが、当会の堀川会員、小川会員の手配をいただき、AMDA様の活動されている益城町のまさに支援活動ど真ん中の広安小学校に伺えることが出来ることになった。逆にそのような場所に伺って、何も活動できずに恥をかいてしまったらどうしようという、不安感も同時にわき上がってきた。

そして時が過ぎ、5月23日、福岡に拠点を置いた我々は、自動車にて益城町に入った。

車路、熊本に近づくに従って、ブルーシートが広がる屋根を見るにつれ、被害の大きさを実感してきた。車を進め、益城町に入るとまるでおもちゃ箱をひっくり返したような家が連なっている一方で、まるで何事もなかったような家もあり、直下型地震の特殊性に息を呑む思いであった。



到着後、AMDA大政様より貴会の当地での活動内容をお伺いし、初動からの活動に頭が下がる思いであった。そして本日の活動の打ち合わせを行ったあと、午前中は同小学校体育館内の清掃をおこなった。幸い、当隊の中に清掃業を営む者がおり、その的確な指示と迅速な行動により、ミッションを素早く終了した。体育館内はクーラーの工事が完了していたが、まだ稼働しておらず、館内は日が差し込み、暗幕は、寒さを凌ぐ為に切り分けて毛布代わりに使ってしまったとのことで、高温の状態であり、また、被災地の建物には、赤・黄・緑の紙が建物に貼付されており、体育館自体も黄色の紙が貼られた建物であり、微妙に床が歪んでいた。

そして、昼食時になり、我々は握飯を持参したのであるが、炊き出しの豚骨ラーメンが我々にもご用意頂いているということで、有り難く暖かい昼食を頂く事が出来た。疲れた体には、豚骨のスープが体にしみいたのは言うまでもない。

その後、翌日に控えた害虫駆除に伴う清掃作業を行った。具体的には、支援物資の仕分けと、薫蒸作業の下準備であった。そして、小学校の廊下や教室に置いてあった簡易ベッドや畳等の体育館への移動作業を行ない、18時頃に作業を終了した。作業の合間に他の避難所も拝見させて頂いたが、まとまりがないというか、ぐちゃぐちゃの避難所もあり、避難所運営には、ボランティアばかり多くてはうまく行かず、きちんとした指揮系統がないとうまく運営できないと言うことを肌で感じた。これは、リーダーシップを発揮できる人材が必要で、指示待ち人間には、出来ないことであろう。日頃のトレーニング、シミュレーションが必要かも知れない。小学校の下校時には、普通に自宅に帰っていく子供がいるかと思えば、体育館に入っていく子供もおり、非常に複雑な心境になった。



今回はAMDAの大政様、熊本りんどうロータリークラブ真嶋会長はじめとしたメンバーの方々など、多くの方とお会いして、自分だけは災害に巻き込まれないだろうと考えがちだが、普段から自身も備えて、他地域に災害が起きた場合も何が出来るかを準備しておく必要があると痛感した。

熊本は、我々からは遠く、中々伺うことは出来ないが、これからも何か支援する事はないかと思い、末筆ではあるが、貴会のますますのご発展と震災地域の1日でも早い復興をお祈り申し上げる次第である。

(2016年8月)



清掃活動にご協力いただいた茅ヶ崎ロータリークラブの皆様と大政調整員